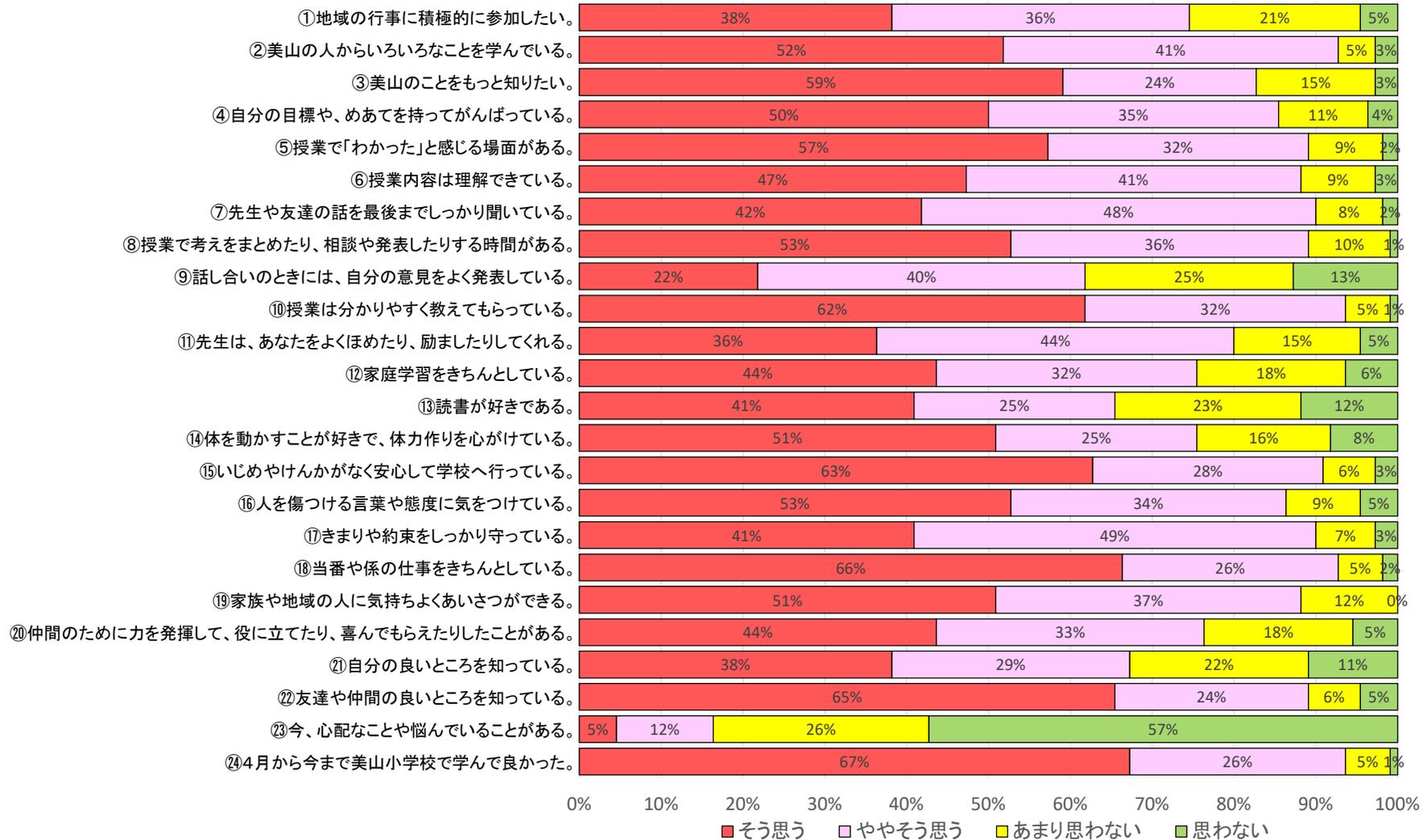


# 令和6年度 児童アンケート集計結果(1月実施)

＜回答児童数 110 名／在籍児童数 112 名＞



多くの質問項目に対して、肯定的回答が8割を上回っており、概ね学校生活に満足していると考えられます。特に「授業で『わかった』と感じる場面がある」や、「授業内容は理解できている」、「授業は分かりやすく教えてもらっている」という授業に関わる質問においては、8割後半や9割を超える肯定的回答となっており、「児童の主体性を大切に、誰ひとり取り残さない授業づくり」が進んでいることが伺えます。また、「美山の人からいろいろなことを学んでいる」という質問についても93%という高い肯定的回答を得ることができました。これは低学年では生活科、中・高学年では総合的な学習の時間で行っている地域をキャンパスにしたふるさと学習「美山学」の充実を表しており、嬉しい結果として捉えています。

しかし、一方で「地域の行事に積極的に参加したい」という項目では肯定的回答率が大きく下がっています。現在5・6年生で行っている「10年後の美山を考える」学習を今後も継続、さらに充実させることで、愛する美山の将来を担う主体者としての当事者意識を高めていきたいと考えています。また、授業への理解度は高まっている中、自分の意見を発表することについては消極的な児童がまだまだ多い現状があります。さらに、自分の良さを知っているかという自己表現や自己肯定感にかかわる肯定的回答についても低いといえます。引き続き、授業や取組を通した集団のかかわりの中で、一人一人の子どもが活躍できる機会を設定し、小さな成功体験を積み上げていくことで、自己有用感や自己肯定感など非認知能力を高めていきたいと思えます。

家庭学習や読書に関わる項目についても今後高めていきたいところです。1月に保護者の皆様にお示しをした家庭生活における努力事項を意識し、地域・保護者のお力もお借りしながら児童の意欲が高まる工夫を具体的な取組として実施していきたいと考えています。

「美山小学校で学んで良かった」と感じている児童が9割を超えている一方、そう感じていない児童が6%程度いること、また、いじめや人権に関する質問で肯定的でない回答をした児童もいることから、今回のアンケート結果を真摯に受け止め、すべての児童が安心して学校生活を送れるよう授業や取組の改善に努めて参ります。